

成長と安定配当を実現します

私たちCACグループの財務戦略は、成長に向けた投資と安定的な株主還元の両立です。ここでは、私たちの財務に対する考え方についてまとめました。

資本政策の原則

CACグループの資本政策の原則

成長に必要な投資を積極的に行いながら、安定的かつ継続的な利益創出

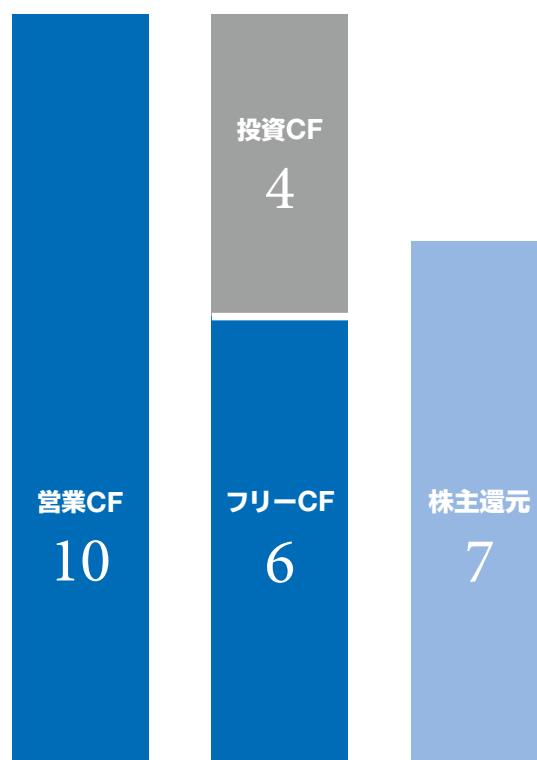
安定的な配当に加えて、自社株取得などの施策を含む総合的な株主還元を図る

キャッシュ・フロー(CF)について

2015年度の営業CFは、7.7億円の支出となりました(2014年度は23.3億円の収入)。税金等調整前当期純利益7.6億円、減価償却費7.8億円の収入に対して、売上債権の増加14.3億円、法人税等13.5億円の支出などがありました。投資CFは、27.6億円の支出となりました(2014年度は4.3億円の収入)。投資有価証券売却12.7億円の収入に対して、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得14.8億円、投資有価証券取得14.6億円、無形固定資産取得9.4億円の支出がありました。財務CFは、8億円の支出となりました(2014年度は13.9億円の支出)。配当金の支払6.3億円、社債償還3億円などによるものです。以上の結果、2015年度末においては、現金および現金同等物は2014年度末に対して、43.6億円減少し、91.1億円となりました。

営業CFは比較的安定していますが、買収や事業売却により投資CFは年度によって大きく変わるため、フリーCF(営業CF-投資CFと定義)も変動します。過去5年間の平均で見ると、営業CF約10億円、投資CF約4億円、フリーCF約6億円に対して、株主還元約7億円を実行してきました。

過去5年間平均のCFと株主還元(億円)

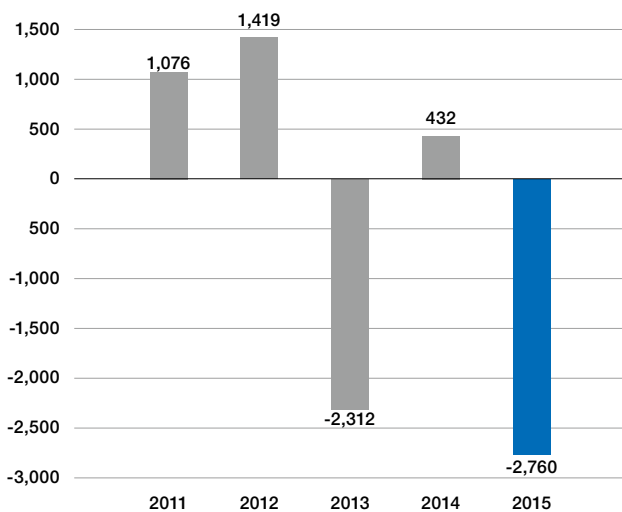


投資について

当社は、東証一部に上場した2000年頃から積極的なM&Aによる成長を展開、2005年に一部子会社の売却をしましたが、その後もM&Aを進めています。主な投資分野は、2000-2006年頃はシステム関連会社、2006-2010年頃はCRO

会社、2002年、2014年および2015年に海外展開加速のために中国、インド、シンガポールのIT企業を買収しています。(当社グループのM&Aの展開についてはP9-10をご参照ください)

投資CFの推移 (百万円)



当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題と位置付けており、収益力強化と健全な財務体質の構築に努めながら、連結配当性向に留意した安定的な配当を継続することを基本方針としています。これに加えて、機動的な資本政策および総合的な株主還元策の一環としての自己株式の取得についても、適宜検討し実施してまいります。内部留保資金については、財務体質強化のほか、グループ成長のためのM&A、事業開発、人材の育成、中長期的視点での研究開発、および生産力・品質力向上などに投資し、継続的な成長に向けて企業総合力とグループ事業基盤の強化に努めてまいります。

過去3年の主な投資

2014年度

Accel Frontline Limited (インド)
投資額16億円 海外IT

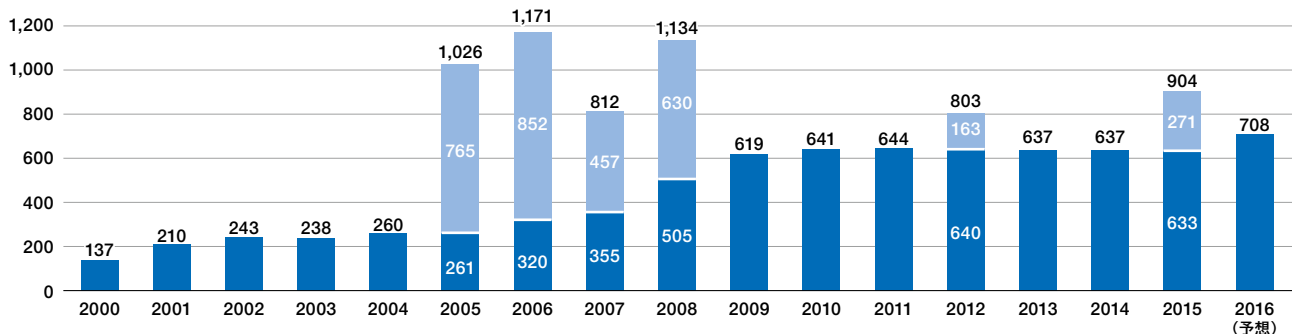
※キャッシュ・フローへの影響は2013年度

2015年度

Sierra Solutions (シンガポール)
投資額17億円 海外IT
コーポレートベンチャーファンド設立
家庭向けロボット開発のJiboに出資
投資額2億円

2015年度は25万株(発行済株式の1.26%/約2.7億円)の自己株式取得を行いました。年間の当期純利益は、引当金やのれんの減損計上を背景に赤字となりましたが、キャッシュ・フローへの影響は僅少だったこと、財務体質は健全な状態を維持していることを考慮し、年間の1株当たり配当金は前年と同額の32円(約6.3億円)とさせていただきます。2016年度は創立50周年の記念配当として年間8円を加え、年間の1株当たり配当金は40円を予定しています。今後も株主への還元に関しては、継続的かつ安定的な配当と機動的な自社株買いを基本方針としたいと考えています。

株主還元の推移 ■支払配当金 ■自社株取得 (百万円)



中期経営戦略

基本戦略と内容

新主流技術の追求

IoTなどによる新市場形成を想定し、海外グループ会社と共同して研究開発とマーケティングに取り組む。

新事業領域へのチャレンジ

内部留保資金を活用してベンチャーなど外部経営資源への投資を行い、CACグループにとって未開拓領域への進出に挑戦する。

BPO付加価値増大

既存事業〔CRO（医薬BTO）と人事BPO〕における高付加価値化を進めると共に、信託向け年金管理などITサービスのみを提供している分野でBPOへの展開を目指す。

2015年度の進捗



コーポレートベンチャーファンド設立、ロボット開発企業(Jibo)に投資



システム開発の効率化・品質向上進む

2016年度以降の取り組み

次の50年に向けて「生まれ変わる」ために新分野への挑戦に特に注力



2015-17年度の中期経営戦略では、6つの基本戦略を掲げています。既存分野では、知識集約によりサービスの質と生産性の向上を図ります。あわせて、新規事業の開拓と、グローバルでの対応力を充実させて受注の拡大を図ることで、企業価値の向上を目指しています。

オール イン アザレア
All in AZAREA

グループの知財を集約した独自の開発プラットフォームである「AZAREA」の機能拡大により、コスト削減と品質向上を実現し、他社との差別化につなげる。

アジア軸での
グローバル支援体制活用

インドのAFLや中国のCAC上海、高遠計算機技術を軸にグローバル支援体制を確立し、既存顧客の海外IT需要を獲得する。

グループ横断的戦略による
企業力の強化

グループ各社の連携を強めると共に、共同で次世代人材育成に取り組み、長期的発展の基盤を構築する。



Sierra Solutions (シンガポール)子会社化



グループアカデミーを通して幹部候補生育成、人的交流も

社会保障・ヘルスケア分野への事業拡大でBPO付加価値増大を目指す

